

5月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎ （2日～4日）アフリカ貿易・投資促進官民合同ミッションのモロッコ訪問
- ◎ （14日～18日）ベンシャマシュ参議院議長の我が国公式訪問
- ◎ （18日～）アル・ホセイマにおける騒擾状態の発生

<内政・政局・治安>

1 内政

（1）衆議院における2017年度予算案の採択

12日、衆議院は198票の賛成票を得て、2017年度予算案を採択した（反対63、棄権39）。約6か月間続いた新内閣の連立交渉のため、同予算案は国会審議と採択が遅れていた。採択後の記者会見で、ブーサイド経済・財政大臣は、政府は、議会から提案された154の修正案のうち60の修正案を受け入れた旨述べた。衆議院での今次採択を受け、同予算案は参議院で審議が行われる。

（2）ラシュガール人民勢力社会主義同盟（USFP）党首の再選

21日、USFPは第10回党大会を開催し、2012年以来第1書記を務め、今次改選で唯一の候補者であったラシュガールUSFP党首が、全1202票のうち1044票を獲得し再選された。

2 軍事

● **王立軍創設61周年記念式典の開催**

14日、ムーレイ・アル・ハッサン皇太子は、モハメッド6世国王の命を受け、モロッコ王立軍創設61周年記念昼食会を開催した。ハッサン皇太子は昼食会場到着時にルアラク王立軍総監（少将）とアブデルカデル・ズラヘル・ラバト＝サレ地区部隊長（大佐）から出迎えを受けた後、儀仗隊を閲兵した。これに引き続き、エル・オトマニ首相、ルディ首相付国防管理担当特命大臣、ベンスリマン王立憲兵隊司令（中将）、エル・ア

ベッド・ブーハミッド空軍監察官（准将），ムスタファ・エル・アラミ海軍監察官（准将）から挨拶を受けた。この昼食会には，首相，衆議院議長，参議院議長，複数の国王顧問，閣僚，最高裁判所長官，検事総長，憲法裁判所長官，軍参謀本部高官，外国武官，国家安全総局長（兼国土監視総局長），王室官房高官，ラバト＝サレ＝ケニトラの地域圏知事及び軍・文民関係者が出席した。王立軍創設61周年を祝う式典は，総司令官兼参謀総長である国王からの訓達の代読，王立軍から国王への忠誠を伝えるメッセージの読み上げ，勲章の授与などが，南部地域（西サハラ地域）を含む全国各地の基地と部隊で実施された。

3 治安

（1）ISIL支持者3名からなるテロ細胞の解体（タンジェ）

8日，中央司法捜査局（BCIJ）はスペイン治安当局と連携し，ISIL支持者3名からなるテロ細胞を解体し，うち1名をタンジェにて逮捕した。このオペレーションはISILの脅威に対抗するため，モロッコ及びスペイン治安当局間における協力の枠組みで実施され，スペインでは共犯者2名が同時に逮捕された。これまでの捜査によれば，このテロ細胞のメンバーはISIL志願兵のリクルートとその派遣に関し，シリア・イラクで活動する戦闘員と緊密な関係を維持していたことが判明した。また，同声明によれば，容疑者1名の兄弟がこの志願兵であった。

（2）ISILへの所属が疑われる6名の者の尋問（カサブランカ他）

9日及び10日，BCIJはカサブランカ，タンジェ，テトゥアン，マラケシュ及びサフィで活動し，ISILへの所属が疑われる6名の者を尋問した。これまでの捜査で，被疑者はISILの擁護とプロパガンダを行っていたことが明らかになった。これらの活動を通じて，ISILの戦闘員が行った残忍な活動にならって，国内でテロ活動を行う恐れがあった。また，逮捕された複数の者はシリア及びイラクの戦闘員と連携しており，国内の複数の都市の戦略的重要施設，娯楽施設，公共機関を狙ったテロ行為を実行するために，爆発物を製造する能力を得ていたことが明らかとなった。家宅捜索により，電子機器，電線，手袋，防護マスクが発見されており，これらは爆発装置の製造に用いられる可能性があった。また，この他に，刃物，ISILに賛同しない者の抹殺を許可する，ISILの旗がついた文書も押収された。

（3）4名からなるテロ細胞の解体

26日，BCIJは，北部ブニ・ブイフルール，同ブニ・ンサル，同ドリウシュ及びマルティルで活動し，ISILと連携していた4名からなるテロ細胞を解体した。これまでの捜査により，このテロ細胞のメンバーがISIL支配地域外における残忍な行為のプロパガンダ作戦に参加し，シリア・イラクの戦闘員との接触を通じて，手製爆弾の製造に関する能力を獲得していたことが判明した。捜査により，ISILの残虐な手口を実行し，最大限の犠牲者を出すため，このテロ細胞のメンバーはモロッコの重要施設

や観光施設に対し、爆発物を使用したテロを計画していたことが明らかになった。このオペレーションにより、電子設備、電子機器、弾薬筒、暴力を扇動する書類及びI S I L旗が押収された。

(4) アル・ホセイマにおける騒擾状態

(ア) 18日午後、昨年10月末の魚行商人圧死事件以来、民衆の抗議活動の舞台となっているリフ地域アル・ホセイマにて新たなデモが発生した。SNS上のライブ画像によれば、民衆は「リフ万歳」や「(アル・ホセイマの)軍事拠点化反対」と叫び、国家の腐敗を非難した。デモ参加者はデモの平和的な性質を強調しつつ、ベルベルの旗や1920年代に宣言され、短命に終わったリフ共和国の旗を振りかざし、市内を行進した。その後、このデモの主導者であり、アル・ホセイマ抗議運動(Hirak d'Al Hoceima)のリーダーであるナセル・ゼフザフィは、市の中心部の広場で演説を行った。ゼフザフィは、行政や地元政治家の腐敗、地元マフィア、体制を操る国家や情報当局からの抑圧、市内における軍隊の大規模展開、同地域の未開発や新たなイスラム政権等を非難した。また、同人は地域行政府を非難しつつ、同人に対して向けられた「分離主義者」との非難を改めて否定した。この集会は午後10時頃に無事に終了した。地元当局によれば、参加者は約5千人とされ、その半数は未成年者で、多くはアル・ホセイマ市以外の地域からの参加であった。ゼフザフィの側近がAFPに述べたところによれば、参加者は20万人に上ったとの情報もある。また、ラバトでもこのデモを支持する300~450人が集合したが、平和裡に解散した。

(イ) この抗議運動を受け、22日、ラフティット内務大臣、アハヌッシュ農水大臣、ハッサド教育大臣、ルアルディ保健大臣、アマラ設備・運輸・ロジスティクス大臣、アラジ文化・コミュニケーション大臣、アフアイラル水利担当閣外大臣、アリ・ファシフィフリ電力・水道公社(ONEE)総裁らがアル・ホセイマに赴き、2015年より開始されているアル・ホセイマ開発計画の複数のプロジェクトの実施状況について説明した。また、これらの閣僚は、地元議員、市のアソシエーション関係者らと計8時間に亘り連続的に会合を持った。これらの会合の中で、ハッサド教育大臣は、来年、同市の大学において分野横断的な学部の開設を約束したほか、約500の(教育関係)ポストを創設することを約束した。このほか、同大臣は、学校施設の改修のために4億DHの支出を約束した。また、保健分野に関し、ルアルディ保健大臣は、アル・ホセイマ県病院の改築が明年までに行われることを約束するとともに、6つの医療センターの新設と29の医療センター改修を約束した。アフアイラル水利担当閣外大臣は、昨年発表した13億DH相当のギス・ダム(le barrage de Ghiss)が建設中である旨述べた。ラフティット内務大臣は、(デモ参加者がその無効を主張する)アル・ホセイマを軍事地域とする1958年の勅令が、1959年以降既に無効となっている旨再度強調した。また、アマラ設備大臣は、道路インフラの整備のために20億DH動員すると発表した。

(ウ) 26日、アル・ホセイマのモスクにおいて、アル・ホセイマ抗議運動リーダーの

ナセル・ゼフザフィが同モスクのイスラム指導者を侮辱し、扇動的な発言を行ったとして、当局が逮捕状を発出した。治安当局が同人の身柄を拘束しようとした際、同人は自宅アパートの屋上から、抗議運動メンバーや地域住民に対して、同運動の主張を繰り返すとともに、平静を保つよう演説を行っていた。治安当局が同人のアパートに侵入しようとした際、逮捕を止めようとする運動メンバー等との間で小競り合いが発生し、運動メンバー等は石を投げつけるなどして、治安当局を妨害、その間に同人は自宅アパートを脱出した。

(エ) この事態を受け、26日から28日までの期間の夜間、運動メンバーが中心となり、アル・ホセイマや近郊イムズーレン等において抗議デモが発生した。27日午後11時頃、アル・ホセイマにおいて、複数の若者グループが「リフ万歳」や「我々は皆ゼフザフィである」と叫びながら、市の中心広場に集結しようとしたところ、治安当局が警棒を用いてこれを阻止した。デモ隊は逃走乃至投石してこれに対抗したが、午前0時頃には結局解散した。イムズーレンでも同様の騒ぎが発生した。

(オ) 28日夜、アル・ホセイマにおいて数百人が抗議デモを行い、デモ参加者は「腐敗した国家」、「尊厳」、「我々は皆ゼフザフィである」と述べつつ、市の中心広場に向かって行進した。市の中心広場は治安当局により封鎖されていたため、治安当局とデモ隊は約1時間にらみ合いを続けたものの、特段衝突することなく、デモ隊は散会した。また、イムズーレンでも数百人が抗議デモを行ったが、特段の衝突はなかった。この運動に連帯の意を表するため、ナドール、タンジェ、カサブランカ、マラケシュ及びラバトで座り込みが行われたが、特段の混乱はなかった。なお、参加者によれば、ラバトでの座り込みには300名程度が参加した模様。

(カ) 29日朝、治安当局は、逃亡を続けていたゼフザフィを逮捕したと発表した。逮捕時の状況や場所にかかる発表はされていないものの、当局は、同人が他の逮捕者とともに、国家司法警察(BNPJ)のカサブランカ支部に移送されたと発表した。この逮捕を受け、29日午後、イムズーレンで、社会正義を訴えるとともに、ゼフザフィの解放を求めるデモが発生し、数百名がこれに参加した。また、29日夜、アル・ホセイマでも同様のデモが発生し、2千人以上の市民がこれに参加した。

(キ) これらの事態に対し、29日夜、公正と発展党(PJD)、イスティクル党及び人民勢力社会主義同盟(USFP)のアル・ホセイマ支局は共同コミュニケを発表し、アル・ホセイマの騒じょう状態に対する国家による治安アプローチに反対する意を表するとともに、逮捕・拘禁者の即時解放を求めた。治安当局によれば、29日までに40名が逮捕・拘禁され、うち25名が既に送検される一方、7名は釈放されたと発表している。これに対し、モロッコ人権協会(AMDH)は、拘禁された者は約50名に上り、尋問を受けた者は70名を越えていると発表した。

(ク) 30日夜、ナセル・ゼフザフィの釈放を求め、アル・ホセイマで数千人がデモを実施した。午後10時頃、デモ参加者は中心街近くのシディ・アベド地区に参集し、治

安部隊と対峙した。緊迫した状況が続いたが、治安部隊が後退したため、両者間の衝突は発生しなかった。午後11時頃、デモ参加者はゼフザフィの肖像画を掲げつつ、「我々は皆ゼフザフィである」、「リフに尊厳を」、「軍国主義化反対」等と叫びながら行進した。このアル・ホセイマにおける大規模デモに加え、マラケシュ、フェズ、ウジュダやナドールでこの抗議運動を支持する集会が行われた。また、ラバトとカサブランカにおいても、座り込みによる抗議活動を行うため、アル・ホセイマの抗議運動を支援する者が参集した。ラバトでは国会議事堂前に約2百名が集まったものの、治安部隊が座り込みを散会させたため、デモ参加者はラバト・ヴィル駅付近での結集を再度試みたが、治安部隊によりこれも散会させられた。カサブランカでは、ゼフザフィを始めとするアル・ホセイマにおける逮捕者が留置されている国家司法警察（BNPJ）支部前やカサブランカ県警本部周辺にて集会が呼び掛けられた。多数の警官がこのデモを阻止するため動員され、即座にデモ参加者を散会させた。

（ケ）31日夜、アル・ホセイマ市においてナセル・ゼフザフィの釈放を求め、約2千人がデモを実施した。同市におけるデモは6夜連続で続いており、デモ参加者は30日夜と同様にシディ・アベド地区に参集、「我々は皆ゼフザフィである」と叫びつつ、ゼフザフィの肖像画、ベルベルの旗や「我々を逮捕せよ、我々は皆活動家である」と書かれた横断幕を振りかざしながら行進した。今次デモは主催者により区画が整理され、特に女性に対する区画が割り当てられるとともに、メディアにも特別な通路が割り当てられたなど、組織的に行われた。治安部隊はデモ参加者に包囲されたものの、デモは午前0時前に衝突等なく解散した。

（コ）31日夜、エル・オトマニ首相の呼び掛けで連立与党党首が協議を行った。この協議で、各党党首は、正当な社会的要求を表明するために抗議を行う権利を再確認し、政府に対し、住民要求との建設的な更なる協議を呼び掛けた。なお、与党・人民運動党（MP）は、このデモが利用される危険性を警告しつつ、アル・ホセイマ抗議運動の要求を支持する旨発表している。

＜外交・国際関係＞

1 我が国との関係

(1) 平成29年度アフリカ貿易・投資促進官民合同ミッションのモロッコ訪問

(ア) 2日から4日まで、武井外務大臣政務官を団長として、アフリカ貿易・投資官民合同ミッションがモロッコを訪問した。

(イ) 2日、武井政務官は、ミッション参加企業とともに、エル・オトマニ首相、エル・アラミ産業・投資・貿易・デジタル経済大臣、ブセッタ外務・国際協力大臣付閣外大臣を表敬し、今次官民合同ミッションを通じ、両国の官民交流が一層発展し、両国間の投資貿易につながることを期待する旨述べた。これに対し、モロッコ側から、官民合同ミッションのモロッコ訪問への歓迎の意が表され、更なる経済関係強化への強い期待が示された。

(2) ベンシャマシュ参議院議長の我が国公式訪問

(ア) 14日から18日まで、ベンシャマシュ参議院議長は、伊達日本国参議院議長の招待により、モロッコ議員団を率いて我が国を公式訪問した。この訪問は、モロッコと日本の卓越した友好・協力関係の強化の枠組みで実施され、両者の協力範囲を拡大する方法について議論され、共有の利益に関連する課題について調整と協議のメカニズムが強化された。ベンシャマシュ参議院議長のほか、ヒフディ参院モロッコ経団連（CGEM）議員グループ会長、レズマ参院外交・国境・国防・領土委員会委員長（参院モロッコ・日本友好議連会長）、ビウイ・オリエンタル地域圏議会議長、セカル・ラバト＝サレ＝ケニトラ地域圏議会議長が今次訪日に参加した。

(イ) 15日、東京で会談したベンシャマシュ参議院議長と伊達参議院議長は、モロッコと日本の参議院間の議会経済フォーラムが創設されたと発表した。ベンシャマシュ議長は、伊達議長との会談において、今次訪日の目的は両国間の協力の新しい展望を調査するためのものであり、様々な分野において両国の関係を引き上げるものであると強調した。ベンシャマシュ議長はまた、伊達議長に対し、モロッコ参議院の概略と地域代表における特異性を説明した上で、モロッコの各地域には膨大な資源があり、投資の機会を提供できると述べた。これに対し、伊達議長は、両国参議院間の関係を表すこのダイナミズムを強調した。伊達議長はまた、モハメッド6世国王と天皇陛下の見識豊かなリーダーシップによる両国間の卓越した関係を歓迎しつつ、モロッコにおけるJICAの役割について想起した。

(ウ) 15日、ベンシャマシュ議長は安倍総理を表敬した。安倍総理から、ベンシャマシュ議長の訪日に感謝の意を表した上で、日本とモロッコは様々なレベルで良好な関係を構築しており、アフリカのゲートウェイであるモロッコとの関係の更なる発展を期待している旨述べた。これに対し、ベンシャマシュ議長は、モロッコは日本と日本国民に敬意を抱いている旨述べつつ、両国は地理的に離れているが、多くの点で共通しており、日本と真のパートナーシップを構築したい旨述べた。同議長はまた、モロッコは極めて

高い経済的潜在性を有し、北アフリカ及び西アフリカで重要な役割を果たしており、日・モロッコ関係を更に発展させていきたい旨述べた。

2 アフリカ関係

(1) モロッコ・ナイジェリア・大西洋ガスパイプライン計画関連署名式の開催

15日、ラバトにて、モロッコ炭化水素鉱山公社（ONHYM）とナイジェリア国営石油公社（NNPC）は、モハメッド6世国王及びオンエアマ・ナイジェリア外務大臣臨席の下、大西洋ガスパイプライン計画のF/Sに係る合意文書に署名した。このF/Sは、両国の公社の監督の下、運営委員会を設立し、1年間実施される予定。

(2) ブルキナファソによるモロッコのECOWAS加盟への支持表明

(ア) 29日、ブリタ外務・国際協力大臣はバリー・ブルキナファソ外務・協力・在外ブルキナファソ人大臣と会談した。ブリタ外相は会談で、ブルキナファソ大統領とモハメッド6世国王が昨年11月にマラケシュで会談した際の指示に従い、両国は査証免除協定案に大筋合意し、次の機会に協定への署名を行うことができる旨述べた。ブリタ外相はまた、本年10月に予定される第4回モロッコ・ブルキナファソ協力合同委員会の開催を始めとする様々な措置について協議することができた旨強調した。

(イ) これに対し、バリー外相は、ブルキナファソはモロッコによるECOWASへの加盟申請を支持し、「モロッコを歓迎する立場」を表明すると強調した。バリー外相は、これはアフリカという同じ地域に所属するためである旨述べつつ、ブルキナファソはモロッコのECOWAS加盟問題を審査する準備ができている旨述べた。

(ウ) なお、ブリタ外相は、25日にワタラ・コートジボワール大統領を表敬、26日にはケイタ・マリ大統領を表敬し、モロッコのECOWAS加盟について協議した。

(3) 南アによるリン鉱石輸送船の一時差押え

(ア) 1日、南アフリカの裁判所は、ポリサリオ戦線からフォスブクラ社（OCP（モロッコリン鉱石公社）完全子会社）がラユーン産リン鉱石を輸送しているのは違法であるとの申立てを受け、エリザベス港に停泊中であつたNM Cherry Blossom号（マーシャル諸島籍）の一時差押えを命じた。

(イ) 同船は4月28日、ニュージーランドに向けラユーンで採掘されたリン鉱石5.5万トン（総価値500万米ドル相当）を積載し、ラユーンを出発し、輸送中にエリザベス港に寄港していた。

3 西サハラ関係

● マラウィによる「RASD」承認撤回

5日、ラバトにて、ブリタ外務・国際協力大臣は、フランシス・カサイラ・マラウィ外務大臣と会談した。会談後、カサイラ大臣は、「マラウィは、2014年3月6日に行ったRASDへの承認を撤回することを決定し、サハラにかかる地域紛争に対して中

立的な立場を維持することを決定した」と強調した。同外相はまた、マラウィが、この紛争に対して持続的で相互に受入れ可能な解決を導くための、国連事務総長と安保理を通じた国連の努力を支持すると述べた。同大臣は、「我が国は、この問題について時期尚早の判断を下すことなく、中立的な立場を維持することにより、国連によって行われているプロセスにポジティブに貢献したい」と述べた。カサイラ大臣は更に、「この中立的な立場及び国連プロセスへの支持が、この長きに亘る地域紛争を解決するために、全ての関係者に対して強いシグナルを送る」こととなるよう期待すると述べた。ブリタ大臣は、マラウィが「RASD」の承認を撤回した35番目のアフリカの国としている。

4 アラブ関係

● ブリタ外相の米・アラブ・イスラム首脳会合出席

(ア) 21日、ブリタ外務・国際協力大臣は、モロッコ代表团団長として、米・アラブ・イスラム首脳会合に出席した。この首脳会合にはトランプ米大統領及びアラブ・イスラム諸国首脳が参加し、効果的なテロ・過激主義対策が協議された。

(イ) 首脳会合の-marginで、ブリタ外相は、モハメッド6世国王がアラブ・イスラムの連帯強化のためのサウジのイニシアティブを支持していると述べ、いくつかのアラブ諸国が抱えている不安定な環境及び危機に鑑み、このイニシアティブの重要性と現代性を強調した。この機会に、ブリタ外相は、サウジとこのイニシアティブに参加する全てのアラブ・イスラム諸国に対するモロッコの支持を強調し、これはアラブ・イスラム諸国間の連帯の強化とその国民の利益の保護を目的としていると述べた。

5 欧州関係

(1) モハメッド6世国王のオランダ仏大統領主催昼食会出席

(ア) 2日、仏を私的訪問中のモハメッド6世国王はエリゼ宮を訪問し、オランダ大統領主催昼食会に参加した。この昼食会には、モロッコ側からエル・ヒンマ国王顧問、ブリタ外務・国際協力大臣が出席し、仏側からエロー外務・国際開発大臣、オドレイ・アズレイ文化大臣（アンドレ・アズレイ国王顧問の子女）、ロワイヤル環境大臣が出席した。このほか、仏文学界からタハール・ベンジュルンやレイラ・スリマニ、哲学者ラシッド・ベンジン、コメディアンジャメル・ドゥブーズ、エリザベス・ギグー仏国民議會議員、ジャック・ラング仏アラブ研究所所長、柔道家であるテディ・リネール等が参加した。

(イ) 仏大統領府の発表によれば、モハメッド6世国王とオランダ大統領を始めとする昼食会出席者は、ジハード主義対策、気候変動対策や文化等を中心に意見交換が行い、モロッコのAU復帰、ECOWAS加盟申請についても議論した。

(2) モハメッド6世国王とマクロン次期仏大統領の電話会談

9日、モハメッド6世国王とマクロン次期仏大統領は電話会談を行った。モハメッド6世国王は電話会談で、マクロン氏の次期大統領就任に祝意を表した。王宮コミュニケによれば、この電話会談は、モロッコ・仏関係の特別な性質を表すとともに、この特別なパートナーシップを強固・深化させる意思を確認するものであった。

6 中国関係

(1) デルハム貿易担当閣外大臣の「一带一路」国際協力フォーラム出席

(ア) 16日、北京で行われた「一带一路」国際協力フォーラムに出席したルキア・デルハム産業・投資・貿易・デジタル経済大臣付貿易担当閣外大臣は、モロッコが中国によって発表された「一带一路」イニシアティブに開かれており、このイニシアティブはモロッコとアフリカ諸国間の協力モデルと軌を一にしている旨述べた。

(イ) 同閣外大臣はまた、「モハメッド6世国王の昨今のアフリカ諸国歴訪はこの方向性を具体化するものであり、モロッコとアフリカ諸国との間で署名された55の協定がそれを証明している」と強調した。この観点から、デルハム閣外大臣は、中国の「一带一路」イニシアティブが一路上の国々における経済・社会開発を実現する狙いがあるため、モロッコのアフリカ諸国に対する切望と、ウィンウィンの原則に基づく「一带一路」イニシアティブの目的は強く交わる旨述べた。

(2) 中国との協力協定の採択

18日に開催された首相主宰閣議で、中国との刑法分野での司法協力に関する法案及びモロッコ国防行政庁・中国国防部門の協力協定にかかる法案が採択された。両協定とも昨年5月のモハメッド6世国王の訪中時に署名され、前者は刑法分野での捜査・訴追・司法手続にかかる協力を拡大するものであり、後者は、交流、訓練、災害対応、PKO活動における協力強化を目指すものとされている。

＜モロッコ要人の外国訪問＞

日付	国	氏名・肩書き	目的
5月2日	仏	モハメッド6世国王	私的訪問, オランダ大統領主催昼食会出席(エル・ヒンマ国王顧問, ブリタ外務・国際協力大臣同席)
5月3日	スペイン	ブリタ外務・国際協力大臣	ダスティ外務・協力大臣との会談
5月4日	コートジボワール	ルディ首相付国防管理担当特命大臣	サヘル・サハラ諸国共同体(CEN-SAD)第6回国防大臣会合出席
5月14-18日	日本	ベンシャマシュ参議院議長	公式訪問, 安倍総理表敬, 大島衆議院議長との会談, 伊達参議院議長との会談等
5月17日	米国	エル・オマリ・タンジェ=テトゥアン=アル・ホセイマ地域圏議会議長(PAM党首)	バージニア州アレキサンサンドリア市長との会談
5月21日	サウジアラビア	ブリタ外務・国際協力大臣	米・アラブ・イスラム首脳会合出席
5月22日	コートジボワール	ベナティグ外務・国際協力大臣付在外モロッコ人・移民問題担当特命大臣	在コートジボワール・モロッコ人コミュニティとの会談
5月25日	コートジボワール	ブリタ外務・国際協力大臣, マンスーリ調査分析総局(DGED)総局長	ウワタラ大統領表敬, モハメッド6世国王発ウワタラ大統領宛メッセージの伝達
5月26日	マリ	ブリタ外務・国際協力大臣	ケイタ大統領表敬

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
5月2-3日	日本	武井外務大臣政務官	官民合同投資・貿易ミッション, エル・オトマニ首相表敬, エル・アラミ産業・投資・貿易・デジタル経済大臣との会談, ブセッタ外務・国際協力大臣付閣外大臣との会談
5月4日	ロシア	シェスタコフ農業副大臣兼漁業庁長官	アハヌッシュ農業・海洋漁業・地方開発・水・森林大臣との会談
5月4日	ガボン	マガンガ＝ムサヴー中 小企業推進大臣	アフリカ投資関連会合出席
5月8日	サウジアラビア	ジュベイル外務大臣	ブリタ外務・国際協力大臣との会談
5月8日	リビア	サーレハ代表議会議長	ブリタ外務・国際協力大臣との会談, エル・マルキ衆院議長との会談
5月8日	コートジボワール	アモン＝タノー外務大臣	ブリタ外務・国際協力大臣との会談, ウワタラ大統領発モハメッド6世国王宛メッセージの伝達
5月8日	ポルトガル	ロペス国防大臣, リベイ 口海軍総参謀長	ルディ首相付国防管理担当特命大臣との会談, ルアラク王立軍総監(少将)との会談
5月8-11日	仏語圏国際機関(OIF)	ミカエル・ジャン事務総長	ブセッタ外務・国際協力大臣付閣外大臣との会談, 第17回仏語圏大学連盟全体会合出席
5月15日	コモロ連合	モハメド・バカール・ド サール外務・国際協力大臣	ブリタ外務・国際協力大臣との会談, アザリ大統領発モハメッド6世国王宛書簡の伝達

5月15-16日	ナイジェリア	オンエアマ外務大臣, ハディ・シリカ運輸担当国務大臣	モハメッド6世国王表敬, ブハリ大統領発モハメッド6世国王宛メッセージの伝達
5月17-19日	米国	ワルドハウザー・アフリコム司令官(陸将)	ルディ首相付国防管理担当特命大臣との会談, ルアラク王立軍総監(少将)との会談, ブリタ外務・国際協力大臣との会談
5月18日	NATO	ソリン・デュカル事務次長	ルディ首相付国防管理担当特命大臣との会談
5月18日	マレーシア	ヴィグネスワラン・サナセー上院議長	ブリタ外務・国際協力大臣との会談, カユーハ参議院第1副議長との会談
5月19日	スーダン	アリ・オスマン・タハ大統領特使(将軍)	モハメッド6世国王表敬(エル・ヒンマ国王顧問, ブリタ外相同席), バシール大統領発モハメッド6世国王宛書簡の伝達
5月24日	ルワンダ	マズカ上院議長	ベンシャマシュ参議院議長との会談
5月22-25日	ガーナ	オカエ国会議長	エル・オトマニ首相との会談, ブリタ外務・国際協力大臣との会談, アハヌッシュ農業・海洋漁業・地方開発・水・森林大臣との会談,
5月25-26日	インド	ニルマナ・シトハラマン貿易・産業担当国務大臣	第5回モロッコ・インド合同委員会出席, エル・オトマニ首相表敬, エル・アラミ産業・投資・貿易・デジタル経済大臣との会談, アマラ設備・

			運輸・ロジスティクス・水利大臣との会談
5月25日	全アフリカ議会	ロジャー・ンドコ・ダン議長	エル・オトマニ首相表敬，デルハム産業・投資・貿易・デジタル経済大臣付貿易担当閣外大臣との会談
5月29日	ブルキナファソ	バリー外務大臣	ブリタ外務・国際協力大臣との会談
5月29日	カザフスタン	カマルディノフ外務副大臣	ブリタ外務・国際協力大臣との会談，ナザルバイエフ大統領発モハメッド6世国王宛メッセージの伝達
5月30日	国連	アルブール国際移民担当事務総長特別代表	ブリタ外務・国際協力大臣との会談

(了)